



こんにちわ奥さん

with e フィール便り



大丸エナウエーン株式会社

「こんにちわ奥さん」係

〒559-0022
 大阪市住之江区緑木1-4-39
 TEL.06(6685)5101
 0120-093-025

<http://living-poppo-garden.jp/>
<http://efillwater.jp/>

はじめに…
 「こんにちわ奥さん」
 係から

河口などに港がある場合、土砂堆積で浅くなり船が航行できない場所が多くなります。比較的水深があり航行可能な場所である滞（みお）との境界に並べ航路を示すのが滞標（みおつくし）。大阪市の市章です。

土筆（つくし）は杉菜（すぎな）の胞子茎（ほうしけい）です。よく知られている形状ではなく、土から顔を出したばかりの頃、先端まで茶色い葉に覆われている様子が筆に似ていることから「土筆」という字をあてられたようです。土筆のまわりに生えてくる細い線状の葉が杉菜です。地下では土筆とつながっていて、土筆が成長した後には伸びてきます。

「つくし」という呼び名は、突き立った杭のように見えることから、滞標に由来します。



土筆（つくし）



母と子 芥子粒

母親にとって「息子は結婚するまで。だが、娘は一生そのま娘」とか。母親の絆は強いようです。もちろん、息子もまた母にとってはかけがえがありません。子は卵子が成長した姿であり、ある意味、自身の生まれ変わり。父親は遺伝情報を伝えるだけかもしれません。

インターネットに気になるニュースがありました。デパートのトイレで、女性が小学生の姉妹の手を引っ張り「探したんよ、何しよったの」と話しかけています。周りの人は母娘だろうと思いましたが、しかし姉妹は「人違いです。助けて下さい」と叫んでいます。後に分かったことは、この女性は事故で2人の子どもを失くし、徘徊しては母親のふりをして連れ去ろうとすることを繰り返していたのです。警察沙汰にはなっていないそうです。訴えるには悲しすぎます。ずいぶん前のテレビのドキュメンタリー番組にも悲しいシーンがありました。猿の群れの中に、何かを常に連れ歩いている

母猿がいました。死んだ子猿です。ミイラ化し薄っぺらになった死骸をいつまでも連れ歩いているのです。猿知恵で死が認識できない、というのは簡単です。子への愛情が強すぎると感じるべきでしょう。

慰めに、釈迦にまつわる逸話を紹介します。幼い子を失くした母親が、半狂乱で釈迦を訪ね、この子を生き返らせたいと願いました。了解した釈迦は「一度も死人を出したことがない家から、芥子粒をもちてきなさい」と言いました。母親は各家を訪ね芥子粒を得ようとしていました。しかし、死人を出したことがない家などありませんでした。祖父や祖母、父母その他係累、どの家にも必ず死んだ人がありました。それを知り、半狂乱であった母親は平静を取り戻したとい

入浴と健康⑦ ヒートショック その予防策



春とはいえ朝晩はまだ寒く、入浴時のヒートショックに注意が必要です。ヒートショックとは、急激な温度変化で血圧の乱高下や脈拍の変動が起こること。冬場の入浴時などに起こりやすく、脳出血、脳梗塞、心筋梗塞などにつながる危険があります。ヒートショックは屋内における高齢者の死因の4分の1を占めます。日本では年間1万人以上がヒートショックで死亡しており、交通事故の少なくとも2倍。浴槽内溺死の8割以上は高齢者ですが、その最大の原因もヒートショックと考えられています。効果的な予防法は、浴室や脱衣所を暖房すること。浴室暖房がベストですが、高い位置からシャワーで浴槽に給湯すれば浴室が暖まります。入浴は食後1時間以上あけて。入浴前の飲酒は避けま

す。いきなり浴槽に入らず、心臓に遠い足からかけ湯をするなど、お湯の温度に体を慣らしてから入るようにすれば、急激な血圧の変化を防げます。浴槽を出るとき急に立ち上がると血圧は急激に下がり、立ちくらみで転倒のリスクが高まります。